

第8章 HIV患者・HIV感染者、HIV患者・元患者の人権について

(1) エイズ患者・HIV感染者に関する人権の問題

問 21. エイズ患者・HIV(HIVウイルス)感染者に関する人権上の問題として、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇印はいくつでも)

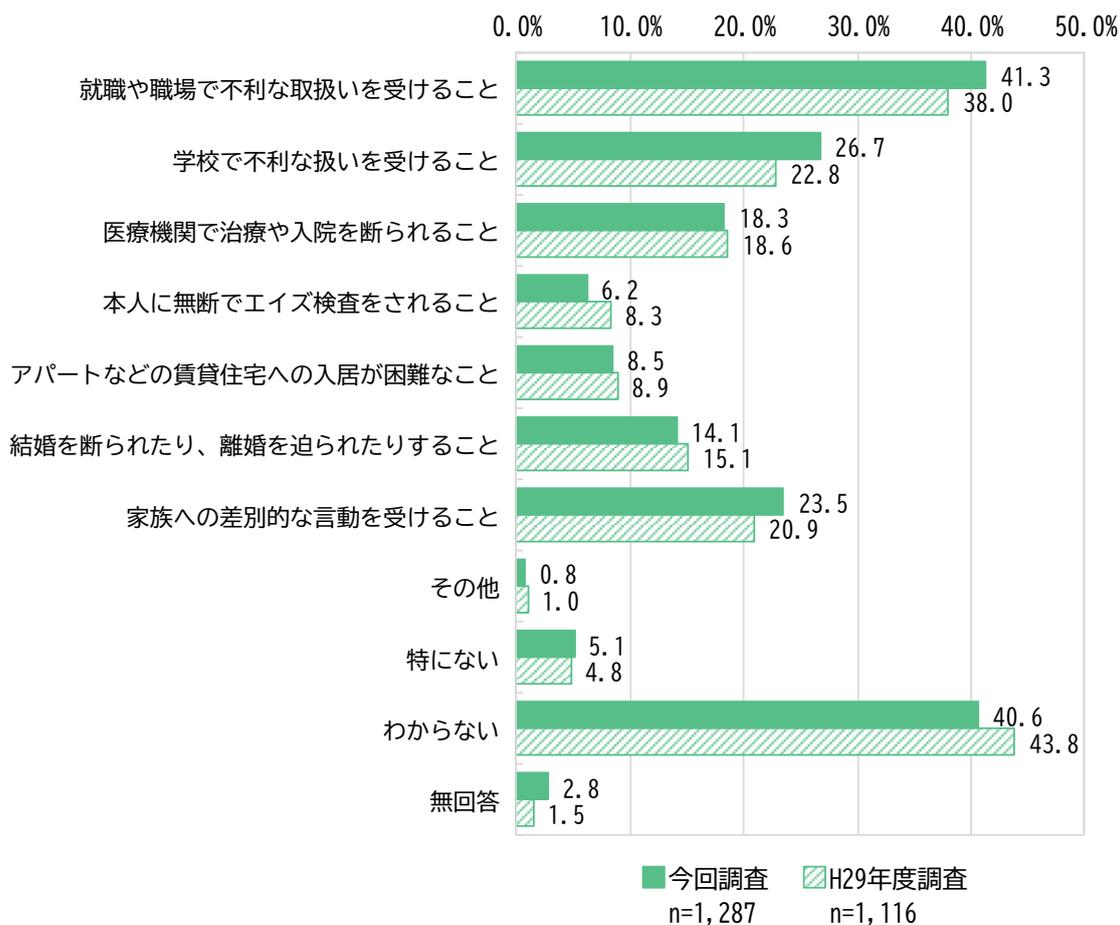
▶ 全体

「就職や職場で不利な取扱いを受けること」が41.3%で最も多く、次いで「わからない」が40.6%、「学校で不利な扱いを受けること」が26.7%となっています。

▶ 平成29年度調査との比較

今回の調査では、「就職や職場で不利な取扱いを受けること」「学校で不利な扱いを受けること」が平成29年度調査よりも若干多くなっています。一方、「わからない」が平成29年度調査よりも若干少なくなっています。

図 8-1 エイズ患者・HIV感染者に関する人権の問題



➤ 性別

“女性”で「就職や職場で不利な取扱いを受けること」が44.8%、「学校で不利な扱いを受けること」が31.2%、「医療機関で治療や入院を断られること」が21.3%と、“男性”より多くなっています。

➤ 年齢別

“50～69歳”で「就職や職場で不利な取扱いを受けること」(46%以上)、“18～19歳”“30～39歳”で「学校で不利な扱いを受けること」(32%以上)、更に“18～19歳”で「結婚を断られたり、離婚を迫られたりする」「家族への差別的な言動を受けること」、 “30～39歳”で「医療機関で治療や入院を断られること」が他の年齢層よりも多くなっています。

図 8-2 エイズ患者・HIV感染者に関する人権の問題（性別・年齢別）



(2) ハンセン病患者に関する人権の問題

問 22. ハンセン病患者・元患者に関する人権上の問題として、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇印はいくつでも)

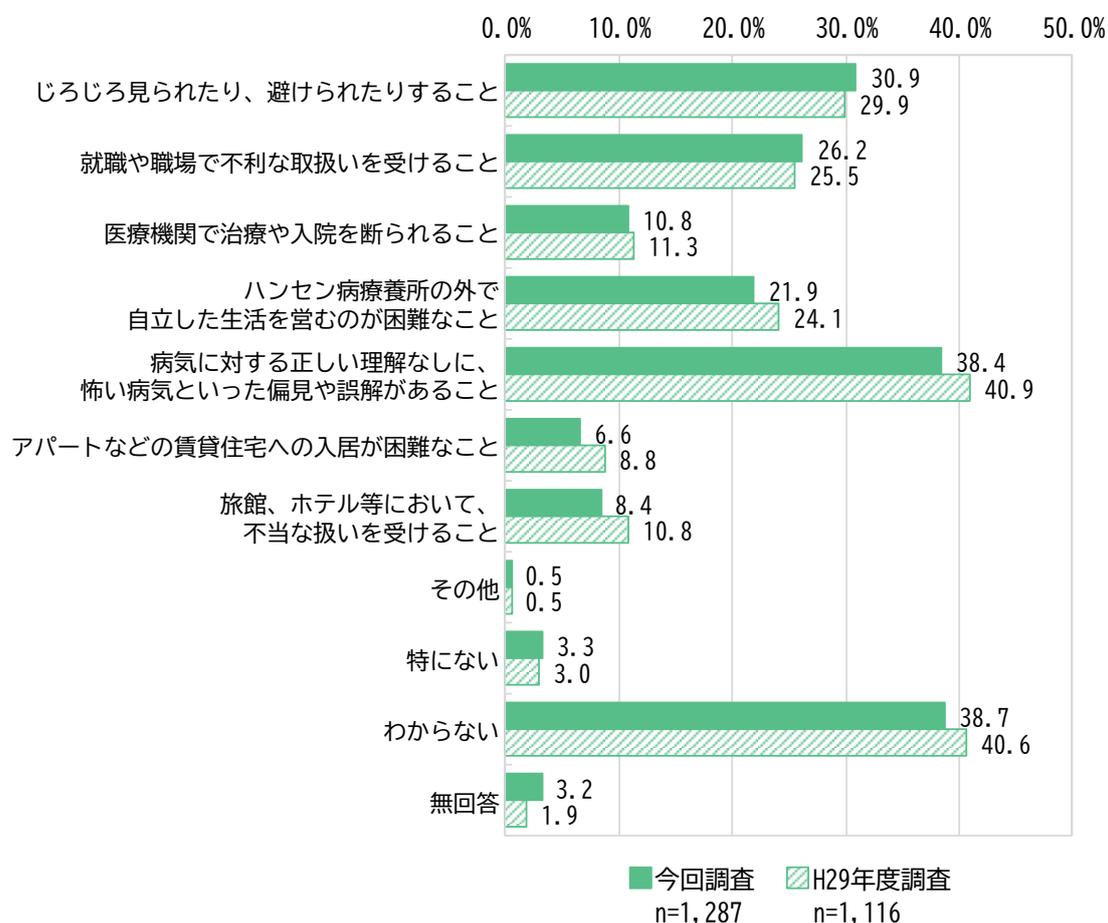
▶ 全体

「わからない」が 38.7%、「病気に対する正しい理解なしに、怖い病気といった偏見や誤解があること」が 38.4%でほぼ並んでいます。次いで「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が 30.9%となっています。

▶ 平成 29 年度調査との比較

今年度の調査と平成 29 年度調査は、ほぼ同じ傾向となっています。

図 8-3 ハンセン病患者に関する人権の問題



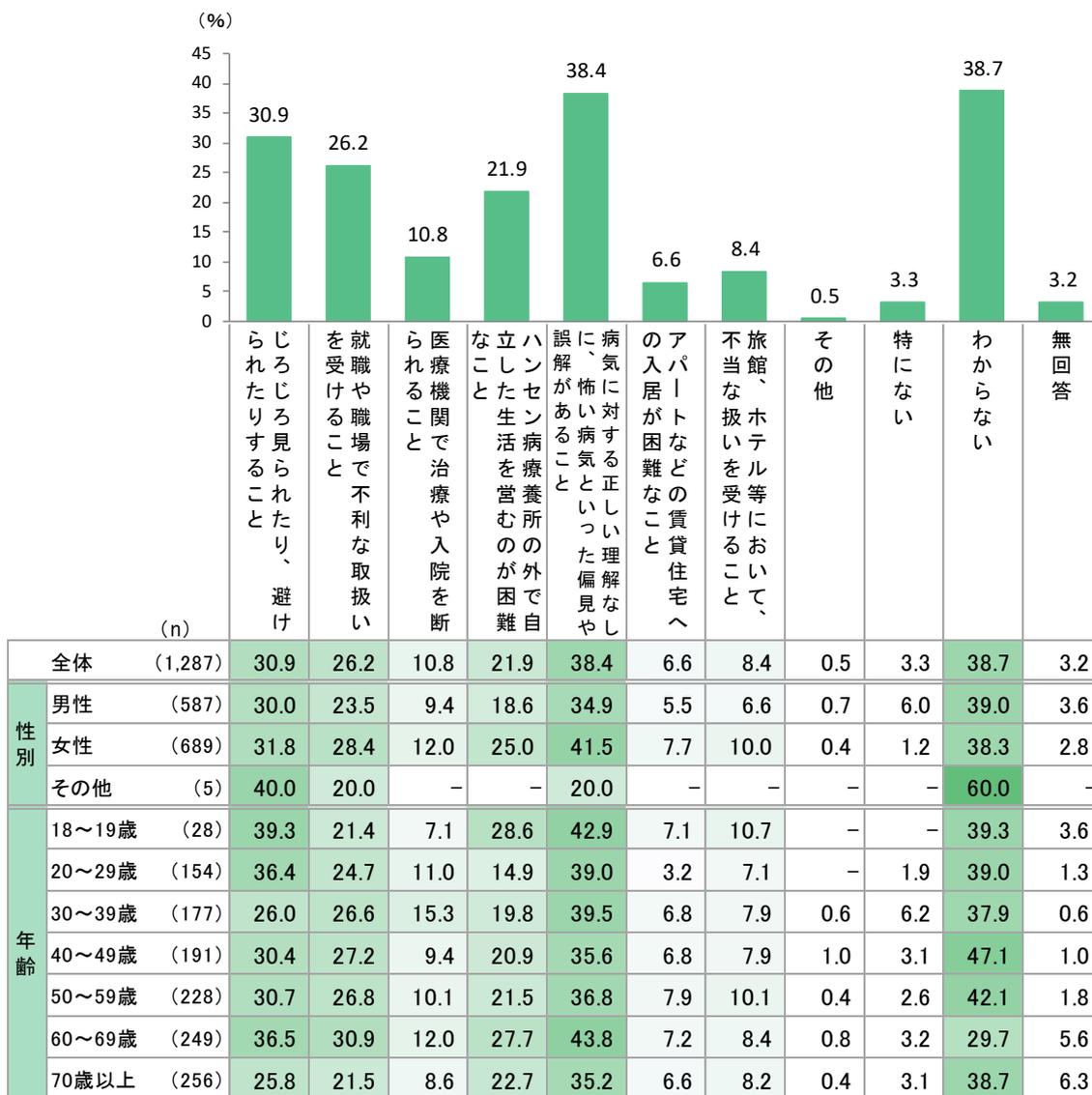
➤ 性別

“女性”で「病気に対する正しい理解なしに、怖い病気といった偏見や誤解があること」が41.5%、「就職や職場で不利な取扱いを受けること」が28.4%、「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと」が25.0%と、“男性”より多くなっています。

➤ 年齢別

“18～29歳”“60～69歳”で「じろじろ見られたり、避けられたりすること」(36%以上)、“18～19歳”“60～69歳”で「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと」(27%以上)が、他の年齢層よりも多くなっています。

図 8-4 ハンセン病患者に関する人権の問題（性別・年齢別）



(3) エイズ患者などの人権を守るために力を入れていくべきこと ……………

問 23. エイズ患者・H I V(エイズウィル)感染者やハンセン病患者・元患者の人権が守られるために、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇印はいくつでも)

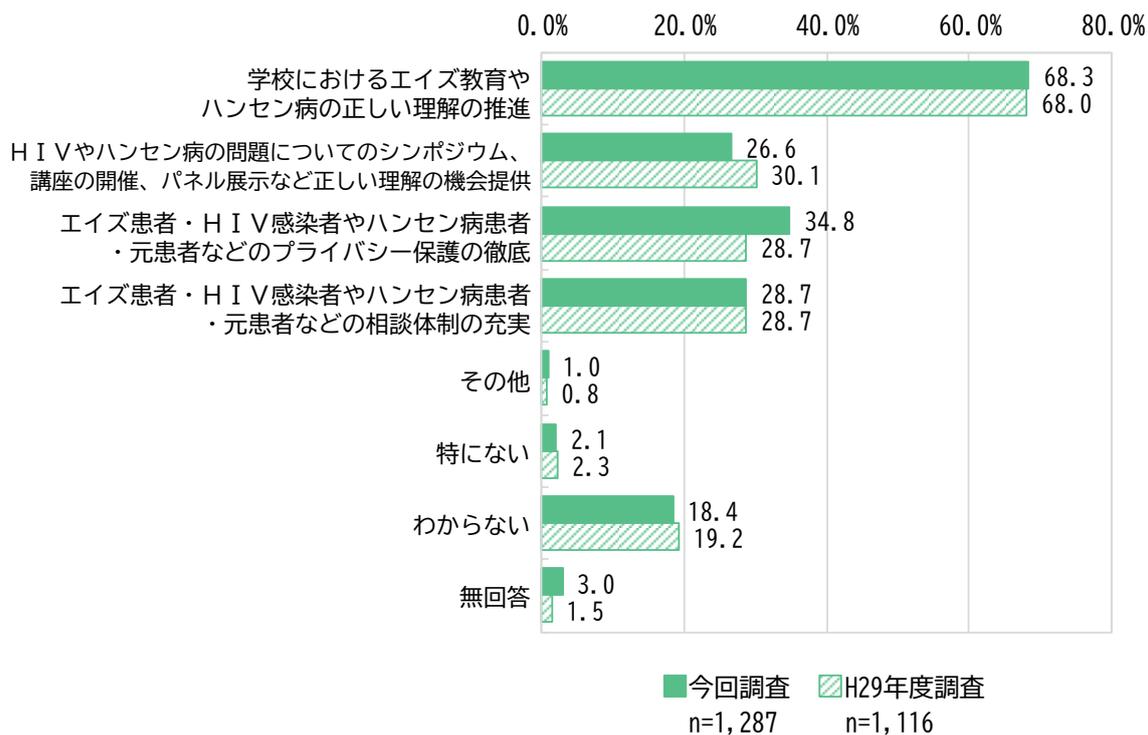
▶ 全体

「学校におけるエイズ教育やハンセン病の正しい理解の推進」が 68.3%で最も多く、次いで「エイズ患者・H I V感染者やハンセン病患者・元患者などのプライバシー保護の徹底」が 34.8%、「エイズ患者・H I V感染者やハンセン病患者・元患者などの相談体制の充実」が 28.7%となっています。

▶ 平成 29 年度調査との比較

今回の調査では、「エイズ患者・H I V感染者やハンセン病患者・元患者などのプライバシー保護の徹底」が平成 29 年度調査よりも多くなっています。一方、「H I Vやハンセン病の問題についてのシンポジウム、講座の開催、パネル展示など正しい理解の機会提供」が平成 29 年度調査よりも若干少なくなっています。

図 8-5 エイズ患者などの人権を守るために力を入れていくべきこと



▶ 性別

“女性”で「学校におけるエイズ教育やハンセン病の正しい理解の推進」が72.3%、「エイズ患者・H I V感染者やハンセン病患者・元患者などのプライバシー保護の徹底」が38.9%と、“男性”より多くなっています。

▶ 年齢別

“20～39歳”で「学校におけるエイズ教育やハンセン病の正しい理解の推進」(75%以上)、“18～39歳”で「エイズ患者・H I V感染者やハンセン病患者・元患者などのプライバシー保護の徹底」(40%以上)、“18～19歳”で「エイズ患者・H I V感染者やハンセン病患者・元患者などの相談体制の充実」(42.9%)が、他の年齢層よりも多くなっています。

図 8-6 エイズ患者などの人権を守るために力を入れていくべきこと（性別・年齢別）
(%)

